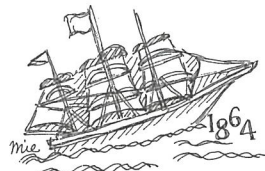


THE LATEST DOSHISHA



法人部

●第二十五回新島講座

四月十日同志社礼拝堂、四月十三日女子大学知徳館において第二十五回新島講座が開催された。講師は女子大学の協定校の一つであるチャタム大学長のエスター・L・バラゾーネ氏であり、一九七九年に新島講座が設けられて以来、初めての女性の講師である。講演は第一回が「女性が学ぶ―現代の女子教育」と題して行われ、女子教育を成功させる秘訣は、女性の能力と可能性

にしっかりと目を向け、大学教職員の男女比のバランスを保ち、学生が教室及び社会において積極的に参加する機会を留意し訓練を与えることなどと、女子教育への取り組みについて講演された。第二回は「女性を学ぶ―国際化の中の女性学」と題して行われ、女性学は全人教育であり、学際的アプローチを必然とするのでこれまでの学問研究の方法に活路を開くものであり、男女平等社会実現に利すべく、政治的に関わりつつ世界的運動へと展開していく可能性のある学問であると「女性学」の導入効果などについて講演された。講演の記録は追って出版の予定である。

なお、第一回講演に先立ち同志社女子大学名誉文化博士の学位が女子大学からバラゾーネ氏に贈呈された。

●一九九九年春の叙勲・叙位

同志社大学名誉教授平井恒夫氏が勲三等瑞宝章を受章され五月十一日国立劇場大劇場で伝達式が行われた。また、四月二十一日永眠された女子大学名誉教授で元法人理事・評議員の坂本武人氏に対し正五位勲三等瑞宝章が授与された。

●一九九九年度入社式

四月二日、大学神学館礼拝堂にて入社式が行われた。本年度の四月一日付採用は、大学教員二十人、女子大学教員四人、国際中学校・高等学校教員二人、香里中学校・高等学校教員一人、大学職員十三人、女子大学職員二人の計四十二人である。松山義則総長と野本真也理事長から歓迎のことが述べられ、野本理事長から一人一人に辞令が手渡された。

大学

●工学部・工学研究科と京都工芸繊維大学との間で単位互換制度を開始

本年四月から、工学部・工学研究科と京都工芸繊維大学との間で単位互換制度を実施している。国立・私立間での同制度の実施は京都府内では初めて。この協定により、デザイン方法論や日本建築史など、本学には設置されていない科目が京都工芸繊維大学から提供される。受け入れ学生数は一科目につき五人程度とし、学生は学部では通算三十単位、大学院では通算十単位を限度に履修することができ、定められた範

囲内で卒業または修了に必要な単位として認定される。

これは両大学が、互いの特色ある科目などをそれぞれの大学の学生に提供するのとどまらず、国立大学と私立大学の教育・研究環境の違いを越えて開放し、カリキュラムの改革および学習機会の多様化、ならびに両大学の交流の促進を目指すもの。これにより、教員は自大学の学生のみならず、相手大学の学生からも評価を受け、学生は相互に影響を受け合うという刺激的な環境の中から、大学の質的向上と新たな教育・研究成果が生まれてくることが期待される。

●留学生別科（日本語教育センター）開設

四月から本学をはじめ国内の大学・大学院への入学を目指す外国人や、交流協定校が本学に派遣する交換留学生、そして学部・大学院研究科が委託する留学生に対し、日本語を教授し、あわせて日本文化に関する理解を深めてもらうことを目的として、「留学生別科（日本語教育センター）」が開設された。新町キャンパスを拠点とし、月曜日から金曜日までの午前中四時間（四十

五分授業）の集中的な日本語授業に加えて、午後には日本の社会・経済・歴史・芸術などの日本事情科目が開講されている。なお、午後に開講される科目のうち外国語による授業の多くは、学部科目としても提供されているので、外国語の学習に対して意欲的な学部一般学生も、これらの科目を履修することができるといえる。

●「同志社盛岡講座」開催

六月五日、岩手県盛岡市中央公民館において同志社大学・女子大学の共催により「同志社盛岡講座」が開催された。両大学の教育研究活動の成果を広く社会に公開しようとするもので昨年の「同志社熊本講座」に引き続き今回開催の運びとなった。

今回のメインテーマは「情報社会は何を求めるか」。バーナード・サツサー女子大学教授から「コンピュータが教育をどう変えていくのか」、本学の高井紳二商学部助教から「企業や地域の活性化・創造のために必要な情報戦略とは何か」という今日的な課題をテーマに講演が行われ、約百二十人の受講者が熱心に耳を傾けた。

●今出川キャンパス・ツアーを実施

同志社大学の歴史や今出川キャンパス内

の重要文化財を紹介するキャンパス・ツアーを四月から実施した。案内役として、在学生がガイドをつとめる。このツアーは春季・夏季休暇を除く各月の第二・第四土曜日および御所の一般公開期間、葵祭、時代祭の実施日など、予め日時を設定して定期的に行っている。四月から六月にかけて七回にわたって行われたキャンパス・ツアーには合計約百二十人の参加があった。

なお、田辺キャンパスにおいても随時学生ガイドによるキャンパス・ツアーが行われている。四月から六月にかけて、修学旅行などを中心に約二百七十人の見学者があった。

●WOT (What's on Thursdays) 始まる

四月より、学生課主催の新しい企画がスタートした。[What's on Thursdays]（通称「WOT」「ワット」）と題して、毎週木曜日の夕刻に大会会館ホールを使った催しを行おうという企画で、春学期には日本映画の九〇年代の秀作、話題作が上映された。秋学期には十月七日から十二月十六日までの計十回にわたり、「東京物語」などの日本映画の名作上映と、クリスマス・コンサー

トの開催を計画中。学生を対象としているが、一般にも開放されている。

●観光学関連寄付講座はじまる

総合政策科学研究科では今年度秋学期から、京都商工会議所観光部会による寄付講座「政策科学特講Ⅰ―地域経済と観光政策―」が開設される。関西の大学に観光学関連の寄付講座が開設されるのは初めて。

これは、今年度から同会議所が展開している観光振興事業の一環で、様々な形で観光に関わる第一線の人物が講師を務めて、リレー形式で計十三回の講義を行う。京都の基幹産業である観光に産業面からアプローチするのではなく、自治体の地域活性化や都市政策という面からとらえて、学際的に探求するのが特色である。オーストラリアやアジア諸国の観光戦略についての講義も行われる。

●「新島襄と関西」展

アメリカで学んだ新島襄が帰国したのは一八七四（明治七）年。以来、同志社大学設立への賛助を求めると同時にキリスト教伝道のため訪れた新島の足跡は、北は札幌から南は鹿児島にいたるまで日本全国に及んでいる。今回の展示は特に伝道と教育と

の両面で拠点となった関西に焦点をあてて、新島の活動の軌跡を概観しようとするものである。

主な展示品は関西での演説草稿、関西に関する新島の自筆イラストなど。また、特別展示として一八九一年に当時の書籍館蔵書の約二分の一にあたる約六千冊を寄贈した小室信介・沢辺正修の、原撫松（一八六六―一九一二）の筆になる肖像画が公開される。原の作品は肖像画に特色が最もよくあらわれているが、生涯、一度も公開されることがなかった。本学では学術情報センタ―（貴重室）がさきの二枚を所蔵するが、普段は未公開である。

・展示場所／Neesima Room

（今出川校地・ハリス理化学館二階）

・展示期間／十月三十日（土）まで

・開室時間／（月）金 九時三十分～十七時

（土） 九時三十分～十二時

当分の間、日曜（十時～十七時）も開室しています。

※祝日・同志社の休日は休室

二〇〇〇年四月開設予定

（設置認可申請中）

同志社女子大学

現代社会学部社会システム学科

現代社会の諸問題を多角的に洞察し、国際社会と地域社会への理解をもとに、新たな時代に活躍できる女性の育成を目指して、新学部（現代社会学部社会システム学科）を設置認可申請中。

この新しい学部には、次の四つのコースがある。

●国際理解コース

国際社会における政治や経済などのシステムを多角的な視点からとらえ、国際機構や国際協力、国際理解のために必要な能力を養成。さらに地域文化や異文化理解などを幅広く学ぶ。

●京都学・観光学コース

文化の受容と発信の営為としての観光の意義を考えるとともに、国際観光都市京都が有する歴史や文化、都市政策などについて学習。観光に対する専門知識と京都文化への深い理解、そして国際感覚を身につけ、国内外で活躍できる女性の育成を目指す。

女子大学

●通学路エスカレーター完成

京田辺キャンパス内通学路に屋外型エスカレーターが完成。四月一日、完成記念式典が行われた。このエスカレーターは、同志社女子大学創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念事業の一環として計画され、現在工事中の「田辺コミュニティセンター（仮称）建設事業」の一部にあたり、屋根は透明で景色も見えるように配慮されている。

●故エスター・L・ヒバード氏百天記念礼拝

本学初代学長エスター・L・ヒバード氏が、去る二月四日、米国カリフォルニア州クレアモントにおいて死去され、四月二十四日、今出川栄光館フアウラーチャペルにて百天記念礼拝が行われた。また、氏のご遺灰は遺言に従って、同志社の祖である新島襄や先輩宣教師たちとともに、若王子の同志社墓地に埋葬された。

●チャタム大学学長 エスター・L・バラゾーネ氏に名誉学位授与

米ペンシルバニア州ピッツバーグにある

チャタム大学。一八六九年の創立以来、『沈黙の春』の著者として有名なレイチェル・カーソンをはじめ、優れた卒業生を輩出しているこの女子大学は、本学協定大学でもある。その学長であるエスター・バラゾーネ氏に、長年にわたる女子教育への貢献を称えて、四月十日同志社礼拝堂にて、同志社女子大学名誉文化博士の学位を授与した。また、本学大橋寿美子学長との両女性学長による懇談会では、女子教育のあり方、日米の大学運営の違い、卒業生とのつながりの大切さなど、話題は尽きなかった。

●オーケストラコンサート

七月三日、新島記念講堂にて、音楽学科学生によるオーケストラコンサートが開催された。指揮に黒岩英臣氏、ソプラノ独唱に松下悦子氏を迎えて、ベートーヴェンの『序曲「レオノーレ」第3番』、R・シュトラウスの『4つの最後の歌』。ペルリオズの『幻想交響曲』ひとりの芸術家の生涯のエピソード』が演奏された。

また、九月四日には岡山シンフォニーホール、五日には広島国際会議場フェニックスホールでも同志社女子大学創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念事業の一

●ライフマネジメントコース

人生をより豊かに充実させて生きられる社会のシステムについて考え、快適な生活のマネジメント能力を養成。生涯学習、社会心理、福祉、ボランティア、家族、女性、ジェンダーなど、幅広く学ぶことができる。

●ビジネスマネジメントコース

産業や金融システムのボーダレス化した現代社会において、グローバルな視点からビジネスをマネジメントする能力とその基礎となる理論を学習。強い倫理観を持ちグローバル・スタンダードを理解して、ビジネスの分野で活躍できる女性を育成する。

☆カリキュラムの特色

まず共通科目で幅広い視野と総合的な判断力を養う。そのうえで、法律系、コミュニケーション系、情報系といった科目群を学びながら、各コースの専門科目を併せて履修。さまざまな分野をクロスオーバーして広く深く学ぶことができるので、現実の社会にリアルタイムに対応したカリキュラムを組むことが可能となります。

お問い合わせ…同志社女子大学入学課

Tel(0774) 65・8811

環として演奏された。

●同志社女子大学創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念事業のシンボルマークとテーマが決定

いつの時代も新しい女性を



高等学校

入学試験

二月五日(金)・六日(土)
応募者数二百五十五人(うち女子百二十四人)、受験者数は二百五十人で、合

格者数は百二十七人(五十九人)、応募者数・倍率(二倍)ともに昨年並みであった

卒業式

三月十日(木)

卒業生三百九十九人(うち女子二百十五人)の進学状況は次の通り

同志社大学推薦三百十人(百五十一人)

同志社女子大学推薦 二人

国公立大学 二十二人(十九人)

私立大学 三十四人(二十九人)

新入生オリエンテーション

三月二十三日(火)・二十四日(水)

昨年度に続く二回目で、二十三日には同中生、二十四日に他中学生を招集し、校長挨拶、各部主任の説明のあと、新担任によるガイダンスを行った。

入学式

四月九日(金)

新入生三百九十九人

(うち女子百九十八人)

教育実習

五月三十一日(月)～六月十二日(土)

キリスト教科二人のほか二十三人

宗教週間

六月三日(木)～九日(水)

宮嶋利光(北海道滝川二の坂伝道所)
「アイヌの人たちとの出会い」

李 仁夏(在日大韓基督教会川崎教会)

「貧しい人は幸いである」

月下美孝(広島東部教会)

「ヒロシマ」から見えてくるもの」

井関恭夫(バプテスト病院)

五日(土)には教職員・生徒約二十人が花をもってバプテスト病院を訪問

同和研修会

六月十六日(木)

藤野高明氏(大阪市立盲学校元教諭 現同講師)を迎えて、約一時間半の講演を拝聴した。氏は七歳の時遊んでいた不発弾が爆発し、視覚と両手肘から先を失うという重度障害者となり、就学の機会も得られぬまま成人された。しかし唇で点字を読む努力を重ね、「文字を獲得することは光を得ることだった」との実感のこもる言葉には深い感銘を受けた。また、昨今よく聞く「障害は個性」の言葉を当事者が自分の気持ちの整理のために使うのならともかく、行政や福祉の専門家が軽々しく口にするのは許せないと言われたのが、大変印象的であった。

「京都高校生の集い」春季討論集会

六月二十日(日)

同志社高校で開催、一九五三年に平和憲

法記念を銘打って開かれて以来、今回で四十七回目。府下の高校生約千人が集い、友情・恋愛・家族・平和と憲法などの九つの分科会で、生徒の司会進行のもとに議論が展開され、また交流を深めた。

●二・三年生団体鑑賞 七月十二日(月)

関西芸術座「遙かなる甲子園」

新島記念講堂にて

●一年生クラス合宿

七月十六日(金)・十七日(土)

府立ゼミナールハウスほか八会場にて

●ウエスリー・ホームステイ

七月二十四日(土)～八月十四日(土)

女子六人、男子三人

付添 浮田義巨教諭

香里中高

●中学校入学試験

一月十五日(金)・十六日(土)

本年度から中学一年がクラス増え、六クラス制になったため、募集人員は二百四十人となった。受験者は千二百三十四人のほり、昨年度より数十人増えている。試

験日の関係で京都府の志願者が激増しているが、この傾向は更に続くと思われる。しかし、はたして何人入学するのか見極めるのは困難であった。登校日には予定数を若干下回ったので、二次合格により定員数を確保した。

●高校入学試験 二月五日(金)・六日(土)

志願者数九十五人、合格者数五十八人、

倍率一・七倍であった。

●新校舎「友愛館」竣工式

三月二十三日(火)

松山義則総長・野本真也理事長・高橋茂寝屋川市長・校友会長秋田まち子氏・大阪府私立中高連会長野田敏彦氏・大阪府生活文化部私学課長池田哲彦氏らが臨席され、友愛館の竣工式が挙行された。新校舎は、一階が新島襄・同志社関連の展示と理科実験室二部屋(化学・物理)で、実験室には十数台のパソコンが並び、薬品の保管・処分・安全管理にも最新の設備・器具が設置されている。二階はビデオ・モニター、OHP、可動式大画面テレビを設置した社会科教室と可動式曲面黑板(全教室)を設置した中学一年生の教室になっている。三階は多目的教室と中学二年生の教室。四階は

数十台(二クラス分)のノート型パソコンを使って、英語の習熟度別個人授業・インターネットの操作方法等を学ぶ情報教室と中学三年生の教室になっている。五階は開閉式ドーム型の屋根をもつプールになっており、五月初旬から十月下旬頃までは温水設備なしで体育の授業・クラブ活動などに利用できるようになっていた。

●入学式

四月八日(木)

中学は五・一倍(実質倍率二・三倍)の難関を突破した二百四十八人が、高校は、二百七十四人(内部推薦二百十六人)が入学した。

●保健の日

四月十四日(木)

計測・視力・聴力の測定は従来教員がおこなっていたが、本年度から業者委託に変更された。また、中学二・三年生、高校二年生を対象に講演がおこなわれた。講師は平安女学院短期大学教授・臨床心理士日高正宏先生。演題は「活き活き生きる」で、ストレスに負けない生活を送る方法について、ギターの弾き語りなどをまじえ、中高生に分かりやすく説明された。

●教職員宗教教育研修

六月九日(木)

講師は同志社女子大学学芸学部教授中村

信博先生、主題は「キリスト教主義教育の新しい座標軸を求めて」であった。宣教型のキリスト教教育から、いかにして理解型のキリスト教教育をめざすか、文化多元社会・価値多元社会におけるキリスト教的価値観についてなど、体験や実例をあげ説明された。

●学校説明会

六月十二日(土)

塾関係者、一般見学者など約六百人が随時授業、施設を見学した。視聴覚教室(図書館一階)では「新島襄と同志社」を上映し、午後からは高校・中学の入試説明会が香真館(講堂)でおこなわれた。特に高校では、来年度から新しく国際コース(二クラス)を設け、初めて女子生徒を迎えることになるため盛んな質疑応答がなされた。

●教職員同和研修

六月十六日(水)

講師は大阪府立高等学校同和教育研究会林伸一先生。「大阪府立高等学校の人権教育の改革」をテーマに講演された。特に米国メリーランド州プリンス・ジョージ郡教育委員会における実践報告の紹介では、ツーリスト・カリキュラムに陥りやすい日本の多文化教育の問題点を指摘された。

女子中高

●卒業式

三月十七日(水)

中学校・高等学校合同の卒業式が行われた。

中学生は二百三十九人が卒業し、全員女子高等学校に進学、高等学校は二百六十二人が卒業、二百三十二人が同志社大学、十一人が同志社女子大学・短期大学、十人が他大学へ進学した。

●修学旅行

中学二年生は、三月十八日(水)～二十日(土)

の二泊三日の日程で、長崎への修学旅行を実施。ハウステンボス、長崎市市内での自主研修を行った。

高校二年生は、三月十八日(水)～二十一日(日)の三泊四日の日程で、沖縄での修学旅行を実施。

中学、高校ともに、自主研修を中心として、平和学習を行った。

●スキー研修

中学三年生の希望者を対象に、三月十八日(水)～二十一日(日)の日程で、高校一年生の希望者を対象に、三月二十二日(月)～二十六

日(金)の日程で、樺池で実施。

●入学式

四月七日(水)

入学式が厳粛に執り行われ、中学新入生は二百三十九人、高校新入生は本校中学からの二百三十九人に高校受験合格者の二十三人を加えた二百六十二人であった。

●女子部創立記念日

四月二十一日(水)

女子部創立百二十二周年の記念礼拝をもつた。礼拝の特別講師には、本井康博先生(大学文学部嘱託講師)をお迎えし、「当日ノ感激今忘ルヲ得ル」と題して奨励をしていた。

●春季遠足

五月十四日(金)

中学二年生は関ヶ原方面、三年生は滋賀県農業公園ブルーメの丘、高校一年生はマイアミ浜オートキャンプ場、二年生は長浜ガラス館、三年生は信楽にて陶作と学年毎に遠足を実施し、親睦を深めた。

●中学一年生修養会

五月十四日(金)～十六日(日)

丹波篠山のユートピア篠山にて、「なかよくなろう」を主題に修養会をもち、同志社で学ぶ意義を考えた。

●芸術鑑賞

五月十八日(火)

午前の部は高校生、午後の部は中学生に

分かれて、本校栄光館講堂にて、「中国芸術鑑賞会」を実施した。演目は多岐にわたり、雑技あり太極拳あり琵琶演奏あり、京劇もあるといった多彩なもので、生徒たちも舞台に参加させてもらい、盛り上がった。

●球技大会

梅雨の晴れ間の天候にめぐまれ、高校は六月十五日(火)、中学は六月二十八日(月)に予定通り実施した。ドッジボール、バレーボール、卓球、バドミントン、バスケットボールにと覇を競った。

国際中高

一九九八年度(三学期)

●千里国際学園との交流会

一月十六日(土)
千里国際学園の高校三年生二十人が来校し、本校生徒との交流会を持った。礼拝、授業に参加したあと、午後はそれぞれの学校について熱心に語り合った。両校の生徒にとって他校を知る良い機会となった。

●高校二年生保護者会 一月二十三日(土)

教務主任が今年度の進路状況について説明し、学年主任より沖縄研修旅行についての説明を行った。約百六十人の保護者の参加があった。

●中学合唱フェスティバル

二月十三日(出)
今年も、京田辺市の一人暮らし老人の会「むつみ」の皆さんを招待して、合唱フェスティバルを開催した。各クラスごとに、この日のために練習してきた曲や全員の大合唱を披露。今年は特に、工夫をこらしたパフォーマンスもあり、おおいに盛り上がった。

●三学期終業式

●卒業式

三月八日(月)
三月九日(火)
中学 九十二人 高校 二百六十六人の生徒たちが、希望に満ちてそれぞれの道に新しい一步を踏み出した。

一九九九年度(一学期)

今年度は、本校が開校して二十年目の年に当たる。校長、教頭も新しい顔ぶれになり、教職員それぞれ、また新たな決意を持つてのスタートである。

●入学式

四月八日(木)

今年も、国際中学校・高等学校での勉学に希望を抱いて、多くの新入生が入学した。

中学一年生 八十四人 二年生 六人
高校一年生 二百七十六人 二年生 一人

●ローレンスビルスクールへの短期留学

三月二十日(出)～四月二十五日(日)
本校の独自プログラムにより、高校二年生六人が姉妹校であるアメリカ・ニュージャージー州のローレンスビルスクールに短期留学した。約一カ月間、有意義な体験を積んだ。

●宿泊研修

中学 四月二十二日(木)～二十三日(金)
高校 四月二十六日(月)～二十七日(火)
例年通り、京都厚生年金休暇センターに宿泊。同志社国際中高で学ぶことの意義について勉強した。入学して最初の行事でもあり、お互いを知る良い機会にもなった。

●中学遠足

六月二日(火)
好天に恵まれ、各学年ごとに遠足を実施。教育実習期間でもあり、実習生も同行して楽しい一日を過ごした。

一年 宇治 天ヶ瀬森林公園

二年 京都嵐山方面

三年 笠置方面

●高校球技大会

六月二日(水)

中学遠足同様晴天の下、クラス対抗のバレーボールを実施。クラスごとにアイディアをこらしたTシャツを着て、元気にプレーを楽しんだ。

●保護者会

六月十六日(水)

平日にも関わらず両親そろっての参観もあり、多数の参加をみた。

●芸術鑑賞

六月十八日(金)

中学・高校ともに、京都観世会館において狂言を鑑賞。

●サマーセッションへ出発

六月二十八日(月)

例年通り高校二年生八人が本校の姉妹校であるアメリカのフィリップスアカデミーにサマーセッション参加のため旅立った。約六週間、世界各地から集まった若者たちとともに学び、ともに語り、大きく成長して帰国する。二学期にたくましくなった彼らに会うのが楽しみである。

中学校

●入学式

四月五日(月)

新入学生 三百三十二人

●新入生オリエンテーションキャンプ

四月十九日(月)～二十一日(水)

二期に分けて、近江八幡国民休暇村

●新入生創立者墓参

四月十九日(月)、二十一日(水)

●遠足(一、三年生)

四月二十一日(水)

二年生は京都市北区の大森キャンプ場、三年生は滋賀県希望ヶ丘にて、飯盒炊きながら、新クラスメートとの親睦をふかめた。

●生徒会委員研修会

四月十七日(土)、十八日(日)

宇多野ユースホステルにて、生徒会執行委員と三年ホームルーム委員による研修会

●生徒大会

五月十三日(木)

●一年生保護者のための学校生活案内の集い

五月十五日(土)

教科・校務よりの説明と施設・クラブ見学

●全校健康診断

五月十九日(水)

●演劇鑑賞

五月二十六日(水)

「UFOの工作」(劇団パノラマ☆アワー) 大学会館ホールにて

●教育実習

五月二十四日(月)～六月五日(土) 同志社大学より十七人、他大学より三人

●春季宗教教育強調週間

六月七日(月)～十二日(土)

「アイヌの人たちとの出会い」

宮島利光先生(滝川二の坂教会牧師)

「アジアの中の日本」

葉 以潔先生(同志社教会伝道師)

「貧しい人々は幸いである」

～Jubilee 2000～

李 仁夏先生(川崎教会名誉牧師)

「世の光」

上野清次郎先生(神戸平安教会牧師)

●花の日礼拝・施設訪問

六月十二日(土)

「野の花を見なさい」

多芸正之先生(西小倉めぐみ教会牧師)

放課後、花をもってホザナとハンドベル部員らが盲養護老人ホーム「船岡寮」を訪問、交流した。また、生徒会執行委員が白川学園、日本バプテスト病院、パンダ園を訪れ、花を届けた。

●英語暗唱大会

六月十二日(土)

●第28回合唱コンクール

六月十八日(金)

全校各クラスが学年課題曲と自由曲に挑んだ。

●夏期キャンプ

一年生(全員参加)

七月二十一日(水)～二十九日(木)
四期に分けて各期二泊三日で、宮津市由良の本校キャンプサイトで。

二年生(全員参加)

七月二十一日(水)～八月二日(月)
四期に分けて各期三泊四日で、長野県白馬村岩岳をベースに、唐松岳に登り、樺池自然園を見学した。

幼稚園

●一月お誕生日会

一月十三日(水)

お誕生日の日は、午前中に教員たちが園児に寸劇、音楽などのアトラクションを行い、その月に誕生日を迎えた園児と父母、教員が昼食を共にし、ケーキにローソクをつけてお祝いをする。

一月は八人の園児が誕生日を迎えた。

●二月お誕生日会

二月十日(水)

六人の園児とお母さんたちと共に

●園外保育

二月二十二日(月)

年中 鴨川へゆりかもめを見に行く。
年少・年長 御所へやきいものたき木を

拾いに行く。

●やきいも大会

二月二十三日(火)

園庭でたき火をし、みんなでやきいもを食べる。

●ひなまつり会食

三月二日(火)

園児全員でつくった製作品でおみせやさんごっこをし、みんなで食事をする。

●移動動物園

三月三日(水)

たくさん種類の動物が園庭に来て、園児達が動物を抱いたり、触れたりして楽しんだ。

●お別れ運動会

三月四日(木)

年長組が卒園間近なので、全園児と父母が運動をして楽しい思い出をつくった。

●三月お誕生日会

三月十日(水)

十一人の園児とお母さんたちと共に

●卒園礼拝

三月十一日(木)

年長組親子で、中学校のチャペルで礼拝をした。

●卒園式

三月十六日(火)

三十四人の園児たちが園を巣立っていった。

●三学期終業式

三月十八日(木)

学期の最後の日、終業の礼拝を行っている。

●一学期開始

四月九日(金)

学期最初の日、始業の礼拝を行っている。

●入園式

四月十二日(月)

三歳児四十五人、四歳児七人、五歳児二人が入園

●四月お誕生日会

四月二十三日(金)

十四人の園児とお母さんと共に

●年少組遠足

五月十七日(月)

大宮交通公園へ(四十一人の園児と共に)

●年中組遠足

五月十八日(火)

植物園へ(四十八人の園児と共に)

●年長組遠足

五月二十日(木)

宝ヶ池へ(四十人の園児と共に)

●五月お誕生日会

五月二十一日(金)

十二人の園児とお母さんたちと共に

●花の日礼拝

六月十一日(金)

園児たちが花を持参し、感謝の礼拝を行った。その後、日頃お世話になっている方々に花をみんなで届けた。

●六月お誕生日会

六月十八日(金)

十二人の園児とお母さんたちと共に

●年長組お茶会

六月二十三日(木)

女子大学裏千家茶道部足立先生と大学生の方より園児達にお抹茶が振る舞われた。